

「のぞいてみよう、原始の人々の暮らし —狩猟～稲作 そしてクニの成り立ち—」

2007年9月13日(木)
～10月30日(火)

今年の博物館学芸員実習では考古分野の展示を制作しました。寄贈品コーナーのスペースを縄文、弥生、古墳の3つの時代に大きく分け、それぞれの時代に平塚に住んでいた人々の暮らしで実際に使われていた資料を並べ、3つ



実習生の制作した展示

の時代の生活がわかるように、集落のイメージ画を描き、壁面に展示しました。絵の中には展示されている資料の使い方やその時代の特徴を描きました。ぜひ3枚の絵を見比べてみてください。

工夫した点は、難しい文字には仮名をつけたことと、絵で道具の使い方のイメージをつかみやすくしたこと。食糧を得る方法が移り変わるにつれ、集落のあり方が、ムラへ、そしてクニへと変化していき、また、用いる道具も変わっていく様子が、絵と資料からわかるように構成しました。

少し難しくなってしまったようにも感じますが、小学生から楽しむことができる展示を目指しました。多くの方が私たちの展示を見に、博物館に足を運んでいただけたら嬉しいです。(北里大学 仲居和美)

「平塚市博物館での実習を体験して」

9月5日～12日の1週間を通して私たちは平塚市博物館で学芸員実習をさせていただきました。大学の授業で博物館と学芸員の役割について学び、それを実習で活かそうと思っていました。しかし、私が学校で勉強して考えていたことと、実際の仕事の現場の間には大きな差があり、新しい発見や驚きがたくさんありました。

学芸員の負っている仕事には、収蔵庫の資料整理やデータをパソコンに入力する地道な作業もあれば、参加者と一緒に作り上げる野外活動もありました。他の博物館の年報や紀要の整理もおこないました。学芸員は研究だけでなく様々な仕事をこなさねばならず、それらの仕事があって、博物館



館が成り立っていると思いました。

また、平塚市博物館で活動している、多くのサークルのうち、私は、裏打ちの会、古文書講読会、漂着物を拾う会の3つの会に参加しました。いずれのサークルも会員の方たちの学ぶ意欲が高く、活発に意見を闘わせていました。その知識の深さは私の知る範囲を越え、雰囲気にも圧倒されたりもしました。

平塚市博物館には、これからも、地域の方によりよい“学びの場”を提供して欲しいと思いました。場の提供という博物館の役割を間近に見ることができ、よい経験をさせていただいたと思います。(中央大学 船川顕子)

写真上)展示の構成を考える実習生 左)資料整理を行う実習生

